科目名	健康回復を支える看護Ⅲ （薬物療法と看護）	対象学年・時期	2年・後期
講師	非常勤講師及び専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
講義概要	ディプロマポリシー３に基づく。医療の現場では、看護師が患者に直接与薬することが多い。また、在宅医療の推進により、患者が正しく服薬管理できるように適切な服薬指導を行うことが求められる。 「臨床薬理学」で学んだ基礎知識を基に、薬物療法の特徴と、対象に及ぼす影響（剤形と投与経路、副作用、ハイリスク患者）を理解し、必要な看護を学ぶ。がん患者に対する化学療法についても医療施設内での看護に限らず、外来で化学療法を受けながら日常生活を送る対象に必要な看護を学ぶことは重要である。また、地域で薬物治療を行いながら最良の健康状態を維持し、自分らしい暮らしを続けるために薬物の自己管理や服薬管理に向けた支援を学ぶことが必要である。対象の特徴に合わせた服薬支援の方法についてはセルフケア、自己効力の観点から学んで欲しい。		
講義形態	講義・グループワーク・PBL		
学習目標	１、薬物の剤形とその特徴に応じた指導方法がわかる ２、ハイリスク患者に対する看護がわかる ３、対象に応じた自己管理のための指導方法がわかる ４、服薬支援における援助の視点がわかる ５、がん化学療法における看護の特徴がわかる ６、薬物管理におけるの支援がわかる		
学習内容 （授業計画）	１、薬物療法と看護の基礎知識　2回　講義・演習 ①薬物の剤形とその特徴に応じた教育指導の理解 ②薬物の体内動態とハイリスク患者の看護 ２．対象に応じた自己管理　2回グループワーク 妊娠中・授乳中の薬物療法と看護 3、服薬支援と与薬（看護師の役割）　援助の視点の理解 ①在宅での薬物管理　2回　ＰＢＬ 内服管理(連携) 癌性疼痛管理 ②高齢者の服薬管理とリスクマネジメント　1回　講義 多剤併用 ③薬物療法をうける子どもと家族　2回　講義・グループワーク 発達段階に応じた看護 薬物治療前の説明 内服方法の工夫 ④精神障害者と服薬管理に向けた支援　1回　講義・グループワーク 薬に対する患者の思い ４、がん化学療法を受ける患者の看護　認定看護師　2回 外来治療を含む 5．事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物管理　2回 服薬の必要性を認識できない場合 子どもと家族・認知症高齢者　グループワーク 怠薬する場合 統合失調症（成人） 終講試験　1回		
使用テキスト	系統看護学講座　薬理学　医学書院　他、随時提示する		
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	薬理学や、各領域で学んだ対象の特性に応じた与薬の援助方法について事前学習してください。		

評価基準と 評価方法	筆記試験で評価する
備考	